

廣益地錦抄

一

卷之壹

851

5

丹九例

四丁

七牡丹

六丁

紅牡丹

六丁

筑前牡丹

六丁

同紅牡丹

三丁

芍藥

三丁



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

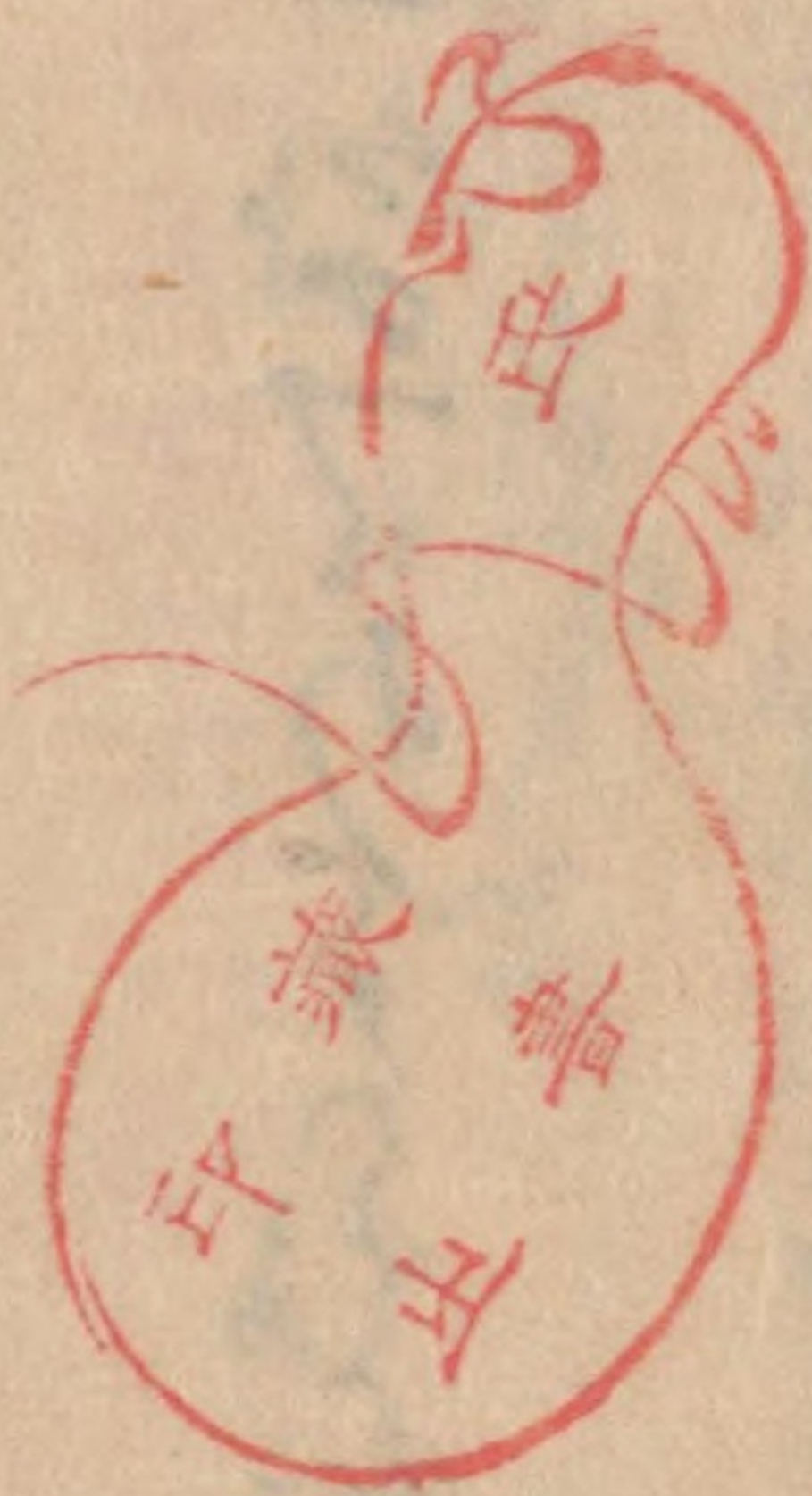
ガラス使用

春を感むるの潔くも秋を重に秋
 一節舞の活くも冬を重に冬
 懸たるやかくも冬を重に冬
 福は一季をふゆらうしと増補地錦
 抄とてふもあつらう実る宮の重
 美良日と角新花澤や去
 乙丑十二年より万七千四年前

凡例

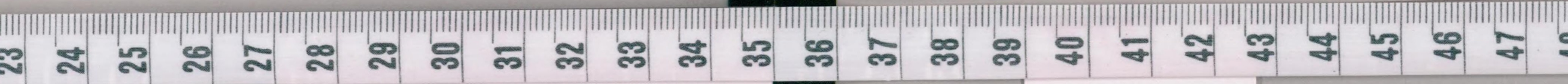
一名の作と春夏秋冬を各一字づつあつらふも季
 その季に花咲くひあり
 一月物中末乃一字づつあつらふも一季の内と三股分
 たりは正月と花咲くひは春初と云二月と花咲く
 其内三月と花咲くひは夏末と云四月と花咲くひは初
 ちて四季たつと云あり二字もあつらふも二月と花咲くひは夏
 ちて四季たつと云あり
 他は節のあつらひあり
 他は節のあつらひあり

一本をわらへ本はるひ茶とあるは茶の心
 一通とあるは通用乃畧言なり通用とてふは
 本をわらへは茶の心とあるは茶の心
 一又五の字は服小茶本乃一字づつありは茶
 性通用あれは本をわらへは茶の心とあるは茶の心
 あり



牡丹凡例

▲牡丹ハ牡丹と九品に分てはるは九品と云ハ一位
 二形ニ色四重五実六葉七前八系九本也
 ▲一位よりよハ四等乃分てはる一位は見二位は位
 とあるは四位ハとあるは位
 ▲三ツハ形よりよハ五実六葉七前八系九本也
 振ありは實六葉七前八系九本也
 ▲三ツハ色二形よりよハ五実六葉七前八系九本也





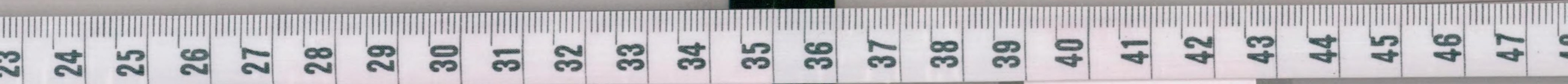
牡丹 がえ

あり厚みありてはびじりて
 八葉は大小長短頻結弱尖あり
 葉端は淡紫あり細長ありてつらき
 葉は厚みありてはびじりて
 九つ本強あるわり
 ふりてよびありてはびじりて
 うーと

牡丹

牡丹

牡丹



国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

牡丹花形圖



増補地錦抄巻之二

○ 白牡丹のるひ 通用春末

三國

みぎまのそを花形
 のくまんけざら
 花ひらうあつく白牡丹
 うけけし実ちのそさ
 うすけくらのそを花形
 黄志べかすくまありそ
 み角にござあり花形
 らおのそを花形
 さうのそを花形
 牡丹花形のそを

安養寺

かえりト
 花形
 さうのそを花形
 らおのそを花形
 すれのそを花形
 おんこのそを花形
 らおのそを花形
 わさのそを花形
 ひのそを花形

花菴 ちんめん ちんめんを平花 ちんめん
かろろのありけし

ちんめんすの葉もあま
ひかり白し

小白 こびやく ちんめんを平花
かろろのありけし

ちんめんを平花
かろろのありけし
裾野白た云

白蓮 ちんめん ちんめんを平花
かろろのありけし

花を咲稀也

白菊 ちんめん ちんめんを平花
かろろのありけし

白縮 ちんめん ちんめんを平花
かろろのありけし

苗木 ちんめん ちんめんを平花
かろろのありけし

玉領 ちんめん ちんめんを平花
かろろのありけし

花を咲稀也

飛龍 ひりゅう ちんめんを平花
かろろのありけし

ちんめんを平花
かろろのありけし

合秋 あき ちんめんを平花
かろろのありけし

ちんめんを平花
かろろのありけし

源南

出雲 いづみ ちんめんを平花
かろろのありけし

ちんめんを平花
かろろのありけし

無茶白 ちんめん ちんめんを平花
かろろのありけし

ちんめんを平花
かろろのありけし

源南



花中より芳華のそと
あけのあけのあけのあけ

千代 ちよひ みあき花飛
あけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

花の香 はなのかぐ 白き花のそと
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

事いそろひのあけ
あけのあけのあけのあけ

香来山 かぐやま 白き花のそと
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

まろ山 まろやま ちよんあけのあけ

小湊 こみなと 中つんあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

八幡 やっぴん ちよんあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

銀玉 ぎんぎょく 中つんあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

八幡 やっぴん ちよんあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

うら白 中の人白くも実白く
養う

後赤 中の人白くも実白く
うらうら

実白く

赤白 中の人白くも実白く
うらうら

うらうら

尾張 中の人白くも実白く
実白く

又花形 中の人白くも実白く
うらうら

中の人白くも実白く
うらうら

鳴戸 中の人白くも実白く
うらうら

実白く

水谷 中の人白くも実白く
うらうら

白のどく

鶴子 中の人白くも実白く
うらうら

実白く

赤坂 中の人白くも実白く
うらうら

実白く

見舞 中の人白くも実白く
うらうら

仙童 中の人白くも実白く
うらうら

も田 中の人白くも実白く
うらうら

福忌 中の人白くも実白く
うらうら

袖付 中の人白くも実白く
うらうら

うらうら

し子 中つんちやまけり
か年花つやうく白

一ふらりうりうり
あー真赤花

家赤 中つんちやまけり
のち二つんちやまけり

一文子 中つんちやまけり

朝霧 中つんちやまけり
すー真赤

海井 中つんちやまけり
か年花つやうく白

一ふらりうりうり
あー真赤花

紅 中つんちやまけり
か年花つやうく白

吉田 中つんちやまけり
か年花つやうく白

あー真赤花
すー真赤

梨子 中つんちやまけり
か年花つやうく白

一ふらりうりうり
あー真赤花

人丸 中つんちやまけり
か年花つやうく白

あー真赤花
すー真赤

月影 中つんちやまけり
か年花つやうく白

あー真赤花
すー真赤

人丸 中つんちやまけり
か年花つやうく白

あー真赤花
すー真赤

月影 中つんちやまけり
か年花つやうく白

若菜 ちんちん花あり白まむ
のまひひろくわひ

和子白にほりまむは茶白う
すひひろくわひのまむ
とら実け茶のつけわりま
む

源氏若菜花む

よふ摘てしうくまむ
ひひろくのむろくまむ
ゆまむまむ

紅山 ちんちん花あり中ま
むあり付らうひ
まむすひひろくわひ
ほりまむ茶のむりかむ

西山 中まむ茶のむり
花あり付らうまむ

ひ

ひろくまむ中まむひろく
廣海 花あり付らうまむ
らうひろくまむ茶のむり
中まむまむ茶のむり
ゆまむのむり付

西洛 中まむ茶のむり
花あり付らうまむ
のまむまむ茶のむり

茶山 ちんちん花あり
花あり付らうまむ
まむまむ茶のむり
ハ付あり 酔がわり

内野 中まむ茶のむり
あり後ハむりまむ

まむまむ茶のむり

相白 中まむ茶のむり
ありまむ花のむり

まむまむ茶のむり
まむまむ茶のむり
まむまむ茶のむり
まむまむ茶のむり

朝倉 中まむ茶のむり
あり付らうまむ

まむ

綸旨 中まむ茶のむり
あり付らうまむ

まむまむ茶のむり
あり付らうまむ

日暮 中まむ茶のむり
あり付らうまむ

ぬけく 中のん五年花想う
抜白 つらあり実る

ちの繁 ちのん〇かー〇
ちの繁 色あり

内訛 中のん〇かー〇
ちのん〇かー〇
あつちいさう

お峰 中のん〇かー〇
ちのん〇かー〇
あつちいさう

花あつちいさう
ぬけく 光りむ結の付る
ぬけく 〇かー〇

長崎 中のん〇かー〇
ちのん〇かー〇

山々 中のん〇かー〇
ちのん〇かー〇

大橋 中のん〇かー〇
ちのん〇かー〇

金太白 中のん〇かー〇
ちのん〇かー〇

北太白 花形あつちいさう
付る〇かー〇
尺三分の花あり実る
あつちいさう

芙蓉 中のん〇かー〇
あつちいさう
あつちいさう

朝鮮 中のん〇かー〇
あつちいさう
あつちいさう

残月 ちのん〇かー〇
あつちいさう

やうに咲く白

花あつちいさう
あつちいさう

朝日 中のん〇かー〇
あつちいさう
あつちいさう

星野 中のん〇かー〇
あつちいさう
あつちいさう

夜月 ちのん〇かー〇
あつちいさう

真白 中つもんさきと白手梨
白にほくろのさきと

花入 ちんねん及たまにさきの
かり火急人の形指せ
けしあつ如くけしあつ

小泉 形かくくは素のけしあつ
粉村彦橋よむれあり

公家白 ちんねんさきと白手梨
咲かきさきと白手梨

初霜 中つもんさきと白手梨
白く真黄

文殊 中つもんさきと白手梨
さきと白手梨

花 中つもんさきと白手梨
流編編さきと白手梨
さきと白手梨

秋木 中つもんさきと白手梨
さきと白手梨

紋白 中つもんさきと白手梨
さきと白手梨

青ひ白 ちんねんさきと白手梨
けしあつさきと白手梨
おむさきと白手梨

白極 中つもんさきと白手梨
さきと白手梨

白山 中つもんさきと白手梨
は素のけしあつさきと白手梨
あつさきと白手梨

二条 中つもんさきと白手梨
あつさきと白手梨
あつさきと白手梨
あつさきと白手梨

赤極 中つもんさきと白手梨
さきと白手梨

極白 中つもんさきと白手梨
さきと白手梨

花 中つもんさきと白手梨
さきと白手梨
さきと白手梨

白雲 中つもんさきと白手梨
さきと白手梨
さきと白手梨

赤福 中の人なりのり
少付のほかに

たふ 中の人なりのり
少付のほかに

西尾 中の人なりのり
よりのり

白南蛮 中の人なりのり
よりのり

鶉毛 中の人なりのり
よりのり

赤福 中の人なりのり
少付のほかに

たふ 中の人なりのり
少付のほかに

白福 中の人なりのり
少付のほかに

鶉毛 中の人なりのり
少付のほかに

勝月 中の人なりのり
少付のほかに

光原氏 中の人なりのり
少付のほかに

花一葉 中の人なりのり
少付のほかに

新よりのり 中の人なりのり
少付のほかに

相取 中の人なりのり
少付のほかに

百重 中の人なりのり
少付のほかに

新堂院 中の人なりのり
少付のほかに

赤福 中の人なりのり
少付のほかに

法源院 中の人なりのり
少付のほかに

白倫 中の人なりのり
少付のほかに

茄子 中の人なりのり
少付のほかに

ひび 中の人なりのり
少付のほかに

わらわけ 中つらんふくくうさき
五筋 ありかき

中つらん 四つとれた
五筋 ありかき

ひくうた

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

ちんちん ちんちん
小野 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

ちんちん ちんちん
五筋 ありかき

ちんちん ちんちん
五筋 ありかき

ちんちん ちんちん
五筋 ありかき

ちんちん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

中つらん ちんちん
五筋 ありかき

ありかき

侘条太 中つらん八多あて次

西新 あまのうげ ちるらんさうり

松風 あまのうた

是休 せいしゅう

長押星 ちやうおしせい

安有 あゆ

波衣 なまき ちるらんさうり

中つらんさうり

天下 あまのうた

三島 さんしま

蓮嫌 れんけん

檫 しやう

白坂 しろさか

青木 あおき

石山 いしやま

服部 ふくべ

金山 かみやま

家入 いへいり

仙臺 せんたい

絹白 きぬしろ

長子 ちやうし

須广 すひろ

右の色白

○百人注之並白牡丹

白牡丹 しろぼたん 八多をちるらんさうり

朝鞆 あさたもと まんやうぶくつさうり

多子 たし 八多をちるらんさうり

糸花 いとはな ちるらんさうり

高白

白くあつたもの

尾張

あつたもの

浅黄

白くあつたもの

花入

あつたもの

是より白牡丹のりし終

平戸

あつたもの

牡丹

あつたもの

黄牡丹

あつたもの

八幡

あつたもの

あつたもの

○紅牡丹のりし終

千染

あつたもの

あまのり

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

染井

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

あつたもの

まゝなることりふち舟の心て
招乃花おとりのりやぞ

壺風 ちりん八るさすを
に花の文あひ右野
紙よそれまいつつこる
さうにんあけしこる

浅草 ちりん八るさすを
なごよふ大年花り
あけてさく実あふ家
の年には来乃方

紅山 ちりん八るさすを
中りん食

まゝなることりふち舟の心て
あし二花あり後ちく
せんは花のり

上田 ちりん八るさすを
付か—んりあり
せあめて招の系紅は来
生さしりあり

氏部 ちりん八るさすを
けしこわり—さあす
まゝ

かち方より—又ね山といふ
まひめぢろのかれ北斗より
さあねさす

朝日 ちりん八るさすを
中りん食
とく—さあけしこる
—花後文ありあり

唐は ちりん八るさすを
中りん食

見張 ちりん八るさすを
中りん食

北斗 ちりん八るさすを
中りん食
又さし—それあり花あつ
けしこわり—さあす
りさね七八

織社 ちりん八るさすを
中りん食
かんあり

妙覚 ちりん八るさすを
中りん食
花後文あり

そとに付あり

東大寺 とうだいじ 中の人みさるは

後名より一実黒字の文を
赤くつけらるるに花の先
よみかたりとすしき
は系黄

福壽 ふくじゆ 浅草より又書也
浅草のゆ

柘榴 ざいりゅう 中の人せんやう
りりあび

そとに付あり

葵 あひ 中の人六七と中の人

あび中よとすめく
まぢり又書あ後名
つゝあ

永井 ながい 中の人六七と中の人

あび中よとすめく
紙とるふよては
別て抄本花形也

お記 おき 中の人八と中の人
能出本よりかん

尾花 おなは 中の人六と中の人

あび中よとすめく
危ありあつるの

千尋 ちゆん 中の人六と中の人

あび中よとすめく
実あり

千貫 ちくわん 中の人六と中の人
さきより又書は系黄

象 ぞう 中の人六と中の人
りしはらと実ありあび
はれてあ

深 ふか 中の人六と中の人
高花ありあそとあび
あかんふとあび

奥品 ちりめんすいめり
少付のきしハ並に
乃あり

廣沢 ちりめんすいめり
より一と花

根岸 ちりめんすいめり
多中

水音 布紋おし
より

唐 ちりめんすいめり
ていりあび

赤坂 ちりめんすいめり
多中

並河 ちりめんすいめり
ありあり
七八より
とくすけ紅

奥列紅 倉橋紅

並河紅 秋紅

赤金 中赤紅

上紅 赤紅

くく花
実これ

柳 ちりめんすいめり
ありけし

但 ちりめんすいめり
より花

水 ちりめんすいめり
花

源氏 ちりめんすいめり
花

玉 ちりめんすいめり
花

舎人紅

右より並河紅
とくすけ紅

法 ちりめんすいめり
より花

縮緬 ちりめんすいめり
赤

の付あり

長次 ちりん二るに中

苺子 ちりん二るに中

ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

之階 ちりん二るに中

初也云 ちりん二るに中

源 ちりん二るに中

苺子 ちりん二るに中

ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

やど ちりん二るに中

むす ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

中りん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中
ちりん二るに中

ちりん二るに中

八深 中の人二つをさへく
想一と紅ありひと
志の志やうへく乃如う草
赤まぶは赤黄あり

桜 中の人三つをさの思
冬く花をさす
少桜ありの草赤黄のま
花こ

紅牙 中の人七八をさとき
うれあひさあり香

赤根 中の人りのさけり
赤根おろりまこく花形
草およはさり

お子鞠 中の人りの候花あり
みさすし花形はほし
わらう巻込草もあ
下は赤ありけ花思あり

姫路の思 中の人七八を
花路の思

紅牙 中の人七八をさとき
うれあひさあり香
咲河まのりしゆす花
形あり

紅紅 中の人二つをさとき
三分やどいさく花あり
中ふとひ入二ついさく花あり
さく花あり

紅日 中の人三つをさとき
うれあひさあり香
花ありうりあり

中の人三つをさとき
花ありうりあり

備前 中の人三つをさとき
花ありうりあり

見よ 中の人三つをさとき
花ありうりあり



付の光りあり草あり
但し倉橋あり光輝
花あり

大輪 中の人を記の
先別るこ

形志ありてか
草あり一葉あり花
形志ありてか

赤坂 冬より花あり
水あり

山井 中の人を記の
定居ありおん

山家 中の人を記の
くれありおん

花 中の人を記の
おんあり

夕暮 冬より花あり
くれありおん

千草 中の人を記の
光りありおん

両落 中の人を記の
かありおん

槽 色より花あり
草あり

舎利 中の人を記の
花あり一葉あり
おんあり

舞臺 中の人を記の
花あり一葉あり
おんあり

鶴のね 中つらん 牡丹のどく
かすし 白ちりめん乃
ごらくに置ちりみあり
帯ちり

山星 とれたれあひの
ゆく兼咲

花海屋 中つれあひ
花形

りふ 中つらん
すすれあひ

金枝 あひの
るねうく

大糸 ちりめん
黒紐より
紐九寸

乱糸 中つらん
うねるおし十分
のゆも

のみさぬ 中つれあひ
公守垣 初日

酒天喜子 ちりめん
花の

立茶 ちりめん
むすこ

淡紅 ちりめん
かすし

唐禁 ちりめん
あげ

伴祿 ちりめん
形

ほてらふおあり

監物 けんぶつ 中つもんみまをよお

公年 縮緬 ひらびら 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

葛城 かつらぎ お八重と内久乃物
たてよとつらり

唐崎 からざき 花形もみまをよお
あり

小泉 こいずみ お八重と内久乃物
ちびとつやあり

岩本 いわもと お八重と内久乃物
ちびとつやあり

糸橋 いとばし お八重と内久乃物
ちびとつやあり

緋猪面 ひじろめん 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

習山 ならびやま お八重と内久乃物
ちびとつやあり

赤子 あかこ 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

紅牡丹 べにぼたん 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

伏白 ふししろ 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

本禪寺 ほんぜんじ 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

初花 はつはな 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

平府 へいふ 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

又 また 中つもんみまをよお
ちびとつやあり

長

先づいふにいひつゝは花は
先づ顔より白きぬまひけ
わりしこれのしらすに似たり
白菊斗わりてひびきとて
又いふにありあり

花四郎 ちりめんあせをよ
け茶をくち茶をくち茶を
くち茶をくち茶をくち茶を

白二葉の葉にしろもも
のし
あつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつては
あつてはあつてはあつては

草分ちり末らうし茶

薄紅梅 多あり

行事官 ぐんでうあて
あて揚美地に似たり

千景茶 多に茶をくち茶を
茶をくち茶をくち茶を

背紅 花形のしりて
茶をくち茶をくち茶を

田宮 中の人紐守り
花のくち茶をくち茶を

小景茶 中の人紐守り
茶をくち茶をくち茶を

花色 花形のしりて
茶をくち茶をくち茶を

佐景茶 中の人白景
茶をくち茶をくち茶を

老傷 葉上を光りし茶

花色花 中の人白景
茶をくち茶をくち茶を

人元 うすねらるる草
うすねらるる草
ま〜寅の年の候やう
懸桃のうらなひあひあを
あがたけけあまうら

石山 いしやま
いしやまふくぬを草
白か合てえん
まぶなむしんまむなむ

栗田 あしひら
あしひらうらま
及まぶ黄

緋色 あか
あか
あかまきこわり

胡蝶 こたけ
こたけ
あかまきこわり

注 しゆ
しゆ
あかまきこわり

波 なみ
なみ
あかまきこわり

小町 こまち
こまち
文字摺 あざ
あざ
日向山 ひなたやま
ひなたやま
木暮院 きぼりん
きぼりん
大村 おほむら
おほむら

梵天 ぼんてん
ぼんてん
無縁 むゑん
むゑん
熊野 くまの
くまの
丸太 まるた
まるた
ひー

世親 よせ
よせ
やぐら やぐら
やぐら
天王 てんわう
てんわう
白坂 しろさか
しろさか
あー

左平太 さへい
さへい
信濃 しんのう
しんのう
雲舟 うんしゆ
うんしゆ
とびか とびか
とびか
自注 じゆちゆ
じゆちゆ

看松院 くまのいん
くまのいん
はな はな
はな
ちん ちん
ちん
うけり うけり
うけり
法花 ほふは
ほふは

良安 らうあん
らうあん
とん とん
とん
東毒 とうどく
とうどく
新田 しんた
しんた
古川 ふるがわ
ふるがわ

梅 うめ
うめ
春日星 かすひぶし
かすひぶし
何と紅牡丹のうらひ
何と紅牡丹のうらひ
終

三十七

後前牡丹名考

家陽三月記

○白牡丹の多し

泉香寺

玉堂

法勝

八重垣

舞玉

汝知保古

舞徳屋

し子

明月

香来山

長子

天下

大野

孫名

捨名

法局

小町

牡丹白

蓑白

ありき

袖乃内

二面

夜衣

白げ

子礼子

ま様

玉姫君

白波

天ノ原

袖の上

後月

鶴毛

四ノ宮

ねま

城連寺

小の白

唐松

市十郎

午ノ白

芦月

神浦

心琴

令彦

長柄

大輪	里人	船守	沢邊	因那	細道	小田白
千尋	馬鬼	久那	終白	十六夜	白川	明星
又守	孫後	高山	可体	竹田	杉末	山神舟
芳月	石麩寺	わら比	雲井	田代	白蓮	摸地

羽衣	摸雲	冬日
岩松	五郎	冬日
文級	慈舟	冬日
浮舟	垣根	冬日

冬日

冬日

冬日

○同所紅牡丹乃多心

知首	久那	佐与那
初河	深色	玉垣
熊坂	太真	閑松院
唐舟	深川	深川

茶花形指南

茶花の形は二階三階よりわけ茶葉より
さまあくの形あり余はよまされうすてた乃
ある茶と血といの中茶葉にいらく乃名あり
茶葉細き茶葉と云細きよりよまされいより
まはるい
茶葉の廣と平まるとい廣してうまきとがりうらハ
まはるい平まると大平小平まると大平小平まると
たなま

増補茶葉之分

天竺川 血三葉を花
うさんののりまはるい
わげまはるいよまま

園守 血三葉を花
まはるいよまま

小夜奴 血三葉を花
まはるいよまま

まはるいよまま

綿糸 血三葉を花
ひらわくまはるい
はらまはるいよまま

野守 血三葉を花
まはるいよまま

わらわ 血三葉を花
まはるいよまま

まはるいよまま

見海 花形の極大
之四葉を白く
たのみの一花中に黄
又やそを陰に黄を
ありの金のなりき

金草盤 血白の四葉
花あつく切
りしきより花は
葉の正しくあり金の
なりき

白砂金 白の四葉を
花あつく黄を
そりき

子母の正しく花は
ひしき金のなりき

金孔雀 血を花に
花中に花をどり
の正しく金のなりき
わげ陰に花のなりき

金のなりき
花の正しく
花の正しく
花の正しく

花の正しく
花の正しく
花の正しく
花の正しく

神の香 花あつく花
牡丹の正しく花
多し牡丹を正しく
花を白く牡丹を
花を正しく

千代 花の正しく
牡丹の正しく花
白く花の正しく
花の正しく

たご 花の正しく
花の正しく

朝鮮白 血を花に
花の正しく花
花の正しく花
花の正しく花

花の正しく
花の正しく
花の正しく

花の正しく
花の正しく

花の正しく
花の正しく

十鏡

白二を咲ゆ
かうゆあり

花中黄文ありてその

ゆりわげ今ありて

玉簪

四三を花中
ありてあり

のこく丸くゆり金の

わさけ

名山

白文ありて三を
大平ありて

一そのゆりわげありて

いとまぶゆりて花園

後わが白文ありて

ゆりあり

金月輪

たそのの
三をありて

牡丹花散る花を

見くお花ありてその

ゆりわげ

金文元

うすかりて
けんをありて

あはれゆりありて

はたよ金あり

金腰巻

お花ありて
あはれあり

まぶとありてゆりわげあり

おの平ありてありて

銀玉

白文ありて
ゆりありて

上白ありてありて

ありてありて牡丹あり

こくありてありて

霞浦

二をありて
ありてありて

けんありてありて

のこくありてありて

寶珠山

うすかりて
ありてありて

黄文ありてありて

ありてありてありて

りせりん

四をありて
ありてありて

中そのよありてありて

のこくありてありて

りせりん

ありてありて
ありてありて

るん川

うすかりて
ありてありて

わげありてありて

ゆりありてありて

玉寶

ありてありて
ありてありて

白雪 白き雪がえん
あつらひのしらゆき

大紫雲 大なる紫雲
あつらひのむらさき

花甲の金のしらゆき
あつらひのしらゆき

金のしらゆき
あつらひのしらゆき

小紫雲 小なる紫雲
あつらひのむらさき

うんせう 雲のうしろ
あつらひのしらゆき

あつらひのしらゆき
あつらひのしらゆき

花甲の金のしらゆき
あつらひのしらゆき

金のしらゆき
あつらひのしらゆき

人丸 人なる丸
あつらひのしらゆき

福丸 福なる丸
あつらひのしらゆき

あつらひのしらゆき
あつらひのしらゆき

不二 白き花がえん
あつらひのしらゆき

大花がえん 大なる花がえん
あつらひのしらゆき

玉のど 玉のど
あつらひのしらゆき

あつらひのしらゆき
あつらひのしらゆき

あつらひのしらゆき
あつらひのしらゆき

あつらひのしらゆき
あつらひのしらゆき

わづら 白き花がえん
あつらひのしらゆき

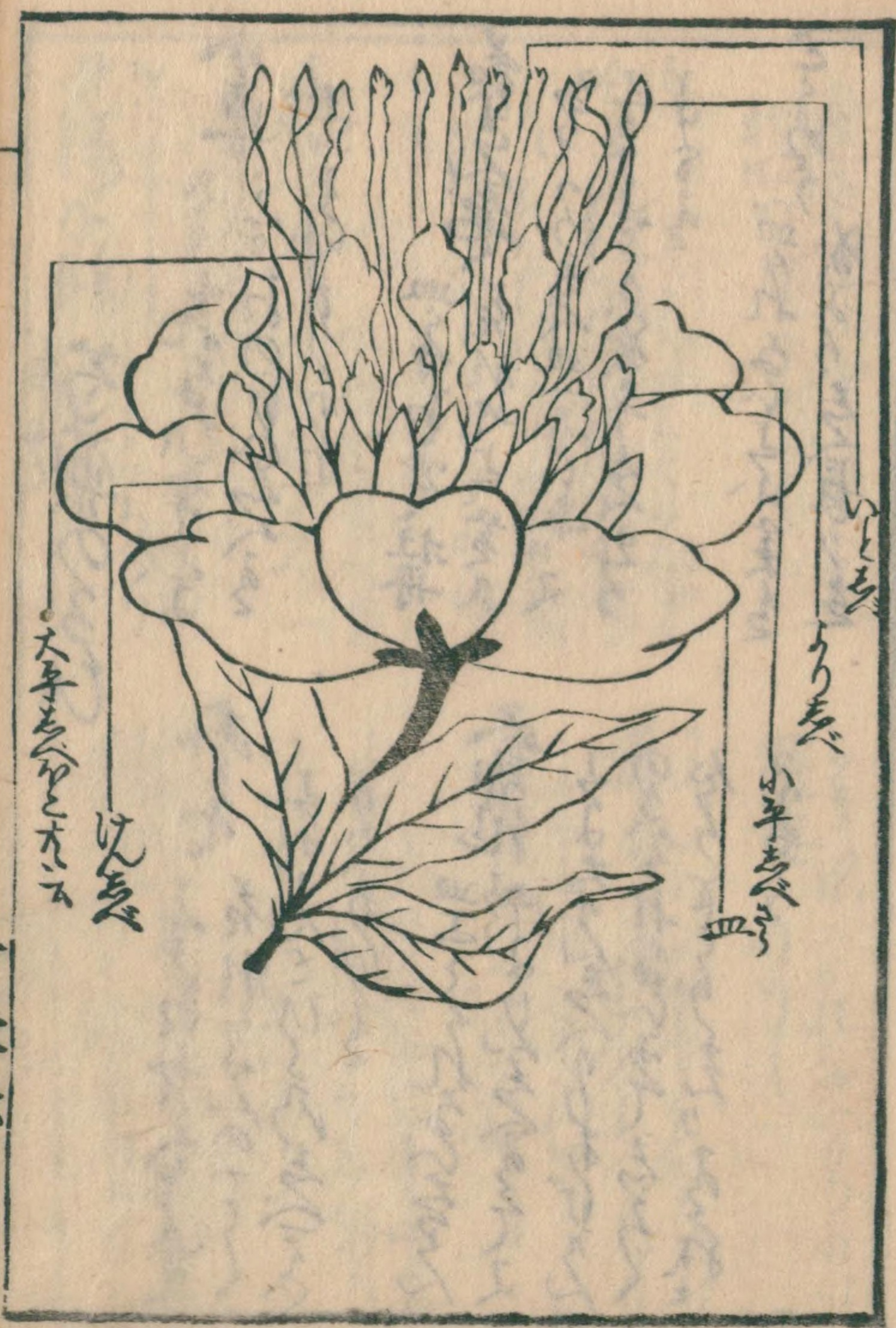
紅紫川 紅紫なる川
あつらひのしらゆき

後出の海 後出なる海
あつらひのしらゆき

あつらひのしらゆき
あつらひのしらゆき

あつらひのしらゆき
あつらひのしらゆき

あつらひのしらゆき
あつらひのしらゆき



大平山公印と大平山

けいぎ

いんぎ
うりぎ

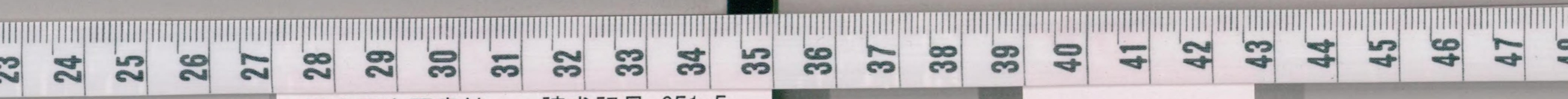
大平山公印
大平山



芍薬

芍薬

三十三



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

芍薬のふし

小軍

さうそれあひあせよ
らすおのけんまぶる
四一ふりあひあせ

花形也

四すあせ牡丹
花形也よま
あつりまぶ四一ふりあせ又
よまうすまあせまぶる
よま

とらめ

四それあひよふま
あつりまぶ長クを

花形

さすあせまぶあせ
花形あせのどく
よまんとひくまぶる
りあせ

節仙

四それあひまぶ
中よれまぶあせ又
よまあせまぶりあせ
のまそれあひあせまぶる
あつりまぶるまぶる
んあせ

さうそれあひあせ
あつりまぶるまぶる
あつりまぶるまぶる

合さん紅其
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

羅生
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

合さん
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる
まぶるまぶるまぶる

まぶるまぶるまぶる

えんげん 四とねとよんえん
みづ他のでく四一といあり
さきぐくうたませのね
こめり

あめりした 中いんまぶ又よ
えちべあり

あまのち くれあの中い小まぶ
あまのち くれあの中い小まぶ
あまのち くれあの中い小まぶ

丸で 四様よよよいんまぶ
あまのち くれあの中い小まぶ

たのあまのち 四といくれあひ
よと年まぶあり
あまのち

金堂寺 四すのりよとん
まぶのりよと

あでまぶの 四うすのりよと
よとすのりよと年まぶあり

すまが白 四自よ自よと
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち くれあの中い小まぶ
あまのち くれあの中い小まぶ
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

あまのち 四とねとよんえん
あまのち くれあの中い小まぶ

ぬきまじり 四白二子とよびん

さじく 四寸すお一子とよびん

いもあふ 四寸す又よとよびん

ふんぐく とよびん

白し 四寸す又よとよびん

はのぞら 四寸す又よとよびん

あが とよびん

むし 四白とよびん

お初白 四寸す又中白

さらか 四寸す又よとよびん

お初白 四寸す又中白

櫛 四寸す又中白

櫛 四寸す又中白

字治橋 ちんりりあが

い とよびん

とよ とよびん

合し とよびん

も とよびん

香 とよびん

た とよびん

か とよびん

合 とよびん

牡丹 とよびん

小 とよびん

合 とよびん

851
5

10045-20

右邊門 四つすねにをらるる
すすねのりあが

おち 四つすねにをらるる
りりあがとままし

江口 四つすねのりあがと

なす 四つすねのりあがと

東小社 四つすねのりあがと

金切石 四つすねのりあがと

金山寺 四つすねのりあがと

せんけう 四つすねのりあがと

あつらひ 四つすねのりあがと

せんけう 四つすねのりあがと

ひらた 四つすねのりあがと

あつらひ 四つすねのりあがと

天光 四つすねのりあがと

あつらひ 四つすねのりあがと

志々々々々々々々



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用